

リサイクルを通じて 地域に恩返しを



株式会社 エコ・アップ

代表取締役社長
東 哲生

地域の建設業に恩返しをという想いから、 リサイクルを中心に事業転換

当社は「東重機建設」として昭和51年に伊万里市で創設しました。創設当初は土建業を、その後、運送業を展開していく中で建設業と深くかわり、「建設廃棄物を活用して何か建設業に恩返しができないか」という想いを抱いたことがきっかけとなって、リサイクル事業に関心を持ちました。

そんな中、情報収集のために訪れた東京の環境展で、出展者の皆さんが5年先、10年先の未来を考え資源のリサイクルに取り組んでいることに感銘を受け、同時に世間の環境課題への関心の高まりを感じたことを機に、思い切ってリサイクル事業へ舵を切ることになりました。ちょうど、平成12年に建設リサイクル法が一部施行されるなど、リサイクルへの社会的な需要が高まっている状況でもありました。

地域とのつながりの中で、 資源を循環させる方法を模索

リサイクル事業については、知見や技術がない状態からのスタートだったため、試行錯誤の連続でした。まず取組みの一步目としては、地元の畜産事業者から牛糞を預かり、木くずと混ぜて堆肥にしたり、木くずをチップ化してパーティクルボードの原料として販売したりすることから始めました。



さらに、地域とのつながりを意識していたからこそ、偶然実現した取組みもあります。以前、野積で保管していた木材が炭化してしまったことがあり、地域の方々に相談したところ、農家の方から肥料として使用

従業員数

16名

設立

昭和51年

事業概要

貨物運送取扱事業、一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物の収集運搬事業、産業廃棄物中間処理(木くず・解体廃材・廃コンクリート・廃アスファルト・石膏ボード・発泡スチロール)、木材業、とび土木工事

したいとの要望をいただき、すべてお譲りしました。その取組みが非常に喜ばれ、また販売してほしいという声もいただいています。

また、私自身、農家を兼業しており、離農の進行や獣害対策、雑木の処理にも課題意識を持っています。例えば、雑木を使ったバイオマス発電やイノシシ肉を使った食品づくりができないかと考えを巡らせ、今後に向けた研究活動や自治体への提案も行っています。新聞や雑誌から情報を集め、こんなことがやりたい、というアイデアをノートに書き溜めているんです。まだアイデアの段階ですが、色々な人と話をし、資源を上手く循環させる方法を模索しています。

一方で、先を見据えた取組みになりますので、社員みんなの理解を得ることや、他の企業や自治体などの地域のステークホルダーと情報を共有することを意識しながら、課題と向き合っていくことが大切と考えています。いずれは私たちの取組みに共感して、SDGsへの関心が高い若者が会社に入ってきてくれればうれしいですね。

「誰かのために」という想いが「みんなのために」へとつながり、「未来を支える子どもたちのために」なることを微力ながら願って、着実に環境問題に取り組んでいきたいと思っています。

ここがポイント！

- 「人のために」自社には何ができるかを常に考えること
- 積極的に外に出て情報収集し、課題解決アイデアの発想に活かしている
- アイデアを自治体や地域の方に向けて発信し、仲間づくりをしている